

7/6

アジア多国籍医師団の 創設に大きな前進

林原フォーラムが援助を決定

去る五月二日、岡山市内のホテルで、

第一回林原フォーラム顧問委員会が開かれ、アジア多国籍医師団の創設に援助することを決定した。世界的にはフランスに本部を持つ「国境なき医師団」があるが、今まで日本人が関与する国際的に活躍する医師団はなく、このアジア多国籍医師団は日本の国際貢献の新しい形となるのではないかと、各方面から注目を集めている。

林原フォーラムは、林原グループが昭和六十年から年に数回、社会奉仕活動の一環として、世界的に活躍している自然科学者（ノーベル賞受賞者を含む）、社会科学者を招いて講演会やシ

ンポジウムを開催してきた。昭和六十

一年には本教と共催で、フィリピンの建国の父であるホセ・リサル生誕百二十五周年記念シンポジウム「東南アジアの歴史と現状」を開催し、大きな反響があったことは本誌で既報のとおりである。本誌「道ごころ」で教主様が執筆されているように、林原グループは昨年暮れ、第一回メセナ大賞を受賞した。このメセナ大賞は、芸術文化活動のためにすぐれた支援活動を行っている企業や財団の中から選ばれるもので、特に昨年は初めてのことであり新聞報道によると選考委員会で意見が百出したという。つまり日本におけ

林原フォーラム顧問委員会—あいさつされる林原社長。左端は広中平祐氏



る「メセナ哲学」を打ち立て、日本におけるメセナの方向性を打ち出そうという意味のある選考だったためといわれ、それだけに林原が受賞した意義は

大きい。

林原グループは、第一回メセナ大賞受賞を機に、さらに林原フォーラムを充実するため、"林原フォーラム顧問委員会"を設立し、教主様をはじめ、国立民族学博物館教授石毛直道氏、川崎医療福祉大学学長・旭川荘理事長江草安彦氏、東京大学理学部教授鈴木増雄氏、お茶の水女子大学名誉教授中山時子氏、ノーベル賞受賞者で数学者の広中平祐氏（五十音順）に顧問委員を委嘱した。

第一回の顧問委員会では、林原フォーラムの基本姿勢が改めて論議され、自然科学の基礎分野にかかわるものを展開すること、社会科学的また国際性のある運動を後援していくことが確認された。そして平成五年に計画されているアジア多国籍医師団創設について、林原フォーラムがスポンサーとして後援していくことが決定されたのである。

平成五年五月には岡山でアジア多国